

紫川

Murasaki River

福岡県



紫川は、福岡県北九州市小倉南区の福智山を水源とし、北九州市内を南北に流れ、響灘に注いでいます。九州の玄関口、小倉の町を貫流する都市河川でありながら、多様な生物、美しい景観が見られる自然豊かな河川です。

明治時代まで、紫川はアユが泳ぐほどの清流でした。しかし、高度経済成長に伴う都市の発展により、水質汚濁が進み、清流のシンボルであったアユなどの姿も消えてしまいました。このような中、かつて清流と呼ばれたふるさとの川に鑑み、「紫川の清流を取り戻そう」という声が発せられたのをきっかけに、紫川の浄化運動が広がっていきました。



紫川の浄化運動と下水道整備

市民ボランティアによる紫川の清掃や、市による徹底した下水道整備が推進されました。その結果、昭和48(1973)年度に14mg/ℓであったBOD値(勝山橋付近)が、平成10(1998)年度には、1.2mg/ℓになるなど、水質が大きく改善されました。市民の環境に対する意識はますます高まり、昭和61(1986)年には、紫川の保全を目的とした最初のボランティア団体「紫川にアユを呼び戻す会」が設立され、紫川へのアユの放流が開始されました。これにより、今では天然のアユの遡上が見られるようになりました。また、上流ではホタルが見られるようになるなど、黒い川であった紫川に清流が蘇りました。



アユの放流

紫川マイタウン・マイリバー整備事業

北九州市は、平成2(1990)年に建設省(現国土交通省)による「紫川マイタウン・マイリバー整備計画」の認定を受けました。これは、治水のための河川整備を行うだけでなく、周辺市街地の再開発や道路整備と連携させて、紫川をシンボルとした魅力ある都市空間を形成することを目的とした事業です。平成23(2011)年度の完成



勝山橋オープンカフェ・ピアテラス



紫江'S水環境館（観察窓）



カヌー体験

を目指して、公園や親水空間、道路、橋梁などの整備が進められています。

紫川マイタウン・マイリバー整備事業により、数々のテーマに沿った橋梁やリバーウォーク、親水公園などの施設が整備され、紫川と市街地が一体となった、川に顔を向けた美しいまち並みが形成されました。また、オープンカフェや貸しボート、遊覧船など、水辺の魅力を活かした様々なイベントが民間主体により行われています。

この事業は、市民のアイデアも積極的に取り入れられており、例えば、紫川沿いに建てられた「紫江'S水環境館」は、「川」と「水」をテーマにした体験型学習施設で、2.3×7.2mの観察窓から紫川の水面下を見ることができる面白い施設です。

このような賑わいのある魅力的なまちづくりが行われていることが評価され、平成19(2007)年度に、国土交通省の都市景観大賞「美しいまちなみ賞」大賞を受賞しました。また、手づくり郷土賞として、平成4(1992)年度に室町大橋「火の橋」、平成5(1993)年度に中の橋「太陽の橋」、平成6(1994)年度に紫川大橋「海の橋」、平成10(1998)年度に州浜ひろば、平成15(2003)年度に市民団体「紫川マイタウンの会」の活動が受賞しています。



紫川河口で遊ぶ子供たち